

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101659		
法人名	有限会社ゆうしん		
事業所名	グループホームゆうしん水前寺		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺5丁目20-50		
自己評価作成日	令和1年12月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に認知症カフェを併設しているが、現在休業中であるが、ご家族の面会時等でご希望があればゆっくと過ごして頂けるよう場所の提供に努めている。入居者様の出来ることと出来ないことを全職員が把握しており、日々統一したケア提供と自立支援に努めており、また、協力医療機関との連携を図り、安心して生活出来るよう支援している。全職員月1回の全体研修へ参加し個々のスキルアップと技術等の向上に努めており更なる知識向上に尽力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体で継続して職員研修に力を注いでおり、カリキュラムに則り毎月の全体研修に参加し、接遇目標を毎朝の唱和項目として位置づけながら、入居者支援にフィールドバックできるよう努めている。建物の構造上、地域から気軽に立ち寄れる環境ではないが、1階に併設されたカフェの再開が近く予定されており、今後の交流が期待されることである。重度化が進む中、上階から地域へ出る機会も多くはないが、近くの小売店での私物の購入や、花見の季節には少人数で数回に分けて春のひと時を楽しみ、徒歩や車いすでの外出を兼ねた病院受診など工夫しながら生活している。管理者は夜間帯の職員のメンタルに心を配っており、ケア会議での情報交換により安心して業務に入れる環境作りを進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼(申し送り)時に理念の唱和に加え、接遇面においても事業所独自の接遇目標を立て強化を図っている。	毎朝、朝礼時に法人理念を唱和し、昨年度よりホーム独自の接遇目標「4項目」についても唱和をおこない、職員のケア指針としている。職員は業務ワークシートで1日を振り返り、自身を自己評価しながら、原点に立ち返る機会をもっている。日々の取組は運営推進会議でも紹介し、あらたな入職者や家族にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会の廃品回収や清掃活動において、入居者様の参加は難しくなっていることもあり、職員が参加し地域との繋がりを保てるよう努めている。	ホームは地域の一員として自治会に加入し、会費の支払いや回覧板のやり取りを通じ、地域と繋がっている。入居者は地域行事(夏祭り)に職員と参加する他、道路沿いの桜見学には数名ずつ数回に分けて出かけ、定期受診に徒歩や車椅子で地域の中を歩くことでホーム周辺の環境を入居者自身に感じてもらう機会としている。	子ども会による廃品回収の協力や年2回の清掃活動への参加など、これまで通りの付き合いができています。今後は夏祭りなどの地域行事に家族の参加を呼びかける事で、交流の幅が広がるものと思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームとして地域に向けた取り組みの実施は出来ていないが、運営推進会議での質問等について随時回答している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議開催時にグループホームの活動内容についての報告を行い、また、地域の方々からの報告を受け、意見交換やアドバイス等を頂きサービス向上に繋げるようにしている。	地域包括支援センター職員や地域代表が参加し、2ヶ月毎の定期開催ができています。入居者の状況や研修、事故などについて報告をおこない、参加者からの行事案内などをホーム運営に反映させています。また、身体拘束については研修内容を通し、ホームの取組を発信している。ホームと地域、行政をつなぐパイプ役として会議の場が活かされるとともに、家族の参加が待たれる。	今後は家族への参加を引き続き呼びかける事で意見の拡充を図り、会議を利用した避難訓練等も検討いただきたい。また、参加できない家族への開示手段として、議事録の記入方法については見直しが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方に運営推進会議への出席を頂き、グループホームの現状や問題点等をお伝えしている。	運営推進会議に参加する包括職員と地域福祉の現状を共有し、包括主催の行事案内などを受けている。運営推進会議では誤嚥などの事故内容を明らかにし、ホームの透明性を図りながら、担当者が行政への報告を行なっている。介護認定調査時には管理者が入居者の現状を詳細に伝えながら、立ち会っている。	昨年より介護相談員との連携を検討しており、引き続き取組に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内全体研修会や事業所内ミーティング時に勉強会を行い、全職員で学び身体拘束のみならず言葉や薬による拘束についても把握するように努めている。	身体拘束について年間カリキュラムを作成し、法人本社で各事業所が参加して毎月研修会が行なわれている。ホーム単独でもミーティングの中で拘束を議題とした勉強会を実施している。不適切ケアについては、“接遇目標”に照らしながら、特に時間を割き、個別のストレスチェックは専門医による確認が行われている。	法人全体で拘束への取組を強化しており、ホームでも身体拘束の指針を掲示して来訪者に向けて啓発に取り組んでいる。今後も社内カウンセラー制度を活用しながら、職員の精神的ケアの継続に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内全体研修会や事業所内ミーティング時に勉強会を行い、拘束と同じく、虐待に関する事項についても正しく理解するように努めている。 ※ストレスチェックに関しては実施継続中である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用されている入居者はいない為、活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度の説明とお伺いがある場合は、丁寧に対応するとともに事前連絡を行い理解を得るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、管理者・介護職員より現状についての説明を行い、ご家族より意見や要望があった場合には職員間で情報の共有を図り適時対応している。 意見箱を設置しているが今のところ投稿はない。	遠方の家族も定期的にホームを訪れ意見や要望を口頭で伝えたり、時には手紙で感謝の言葉がよせられている。職員は面会時に入居者の近況を伝えながら、意見や要望を引き出しており、夏の猛暑に入居者の体調を気遣い連絡を入れられる家族に対応している。入居者の意見は普段のかかわりからききとっており、個別の外出支援などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のミーティングの時間を活用し、提案や意見を聞く機会を設けている。また、欠席者へ対しても内容等について確実に伝達できるよう努めている。	職員は月のミーティングで両ユニットの情報を共有し、入居者の現状把握に努めることで、夜間帯の連携に反映されている。会議の席ばかりでなく日頃から意見や要望が出されており、職員意見により洗濯機の入替えなどが行われている。移動による職員の入替わりもあったことから管理者は働きやすい職場環境を目指し、希望休や有休の取得、研修の確立などに力を入れている。	職員から広報誌を再開したいとの意見が出ており、実現が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が来所し、各々に声を掛けられ、人事部を通して、職場環境や労働条件等の整備に努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種委員会やOJT研修の実施と全体研修会への参加により個人のスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所の研修会等へ参加し情報交換を行うことによりサービス向上に向けた取り組みを実施したいが、現状での参加は難しい状況にある。そのため、会社内における研修会や委員会での情報を公開し職員全体のレベルアップを図り、サービス向上に向けた取り組みを行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人はもちろんのこと、ご家族からの希望や要望、不安や心配事等について詳しく話を伺うとともに当事業所において可能な限りの安心確保をお伝えし、安心と納得の上入居して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人はもちろんのこと、ご家族からの希望や要望、不安や心配事等について詳しく話を伺うとともに当事業所において可能な限りの安心確保をお伝えし、安心と納得の上入居して頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近日中の面会実施と状況把握を行い、当施設への入居や他の支援が必要なのかを的確に判断し、提案や入居に繋がるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の状態を細かく観察し、出来ることの把握に努め、洗濯物たたみやおしぼりたたみ等の簡単な家事を行って頂き、少しでも役割意識を実感出来るような関係作りの構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子等の状況を報告し、入居者各々の近況を把握して頂けるよう定期的にご家族への連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかつけ医(病院)等のなじみのある機関を継続利用出来るよう支援に努めている。	入居者の馴染みの医療機関を引き続き支援し、家族による受診対応の協力が得られている。入居者は家族の面会を楽しみにされており、好みの衣類などを持って来所されている。入居者にはホームでの生活も馴染みであり、近くの小売店でのおやつ購入を楽しみの一つとして個別に対応し、職員と一緒に役所に同行されるなど新たな関係作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	前年度に引き続き誕生会の継続と入居者全員が常にフロアにて過ごしお互いが支え合えるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に相談できるよう家族への説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての入居者様の思いや希望を少しでも聞き出せるよう会話の時間を多くすることに心掛け日常の会話の中から導き出せるよう努めている。	職員は普段の会話から入居者の思いを汲み取り、日々の支援に反映させている。家族の面会時や電話でさらに入居者の思いを確認し、入居者の意向を家族を通して収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を参考にさせて頂きながら本人のみからではなく家族からの情報収集を行い、ケアカンファレンスの実施と介護計画書の作成に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者各々の日常と身体状況を観察し、職員間での情報共有とケアカンファレンスを行い、残存能力の把握と維持に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの情報収集には限界がある為、家族等からの情報収集に努め、ケアカンファレンスにより職員からの意見等を引き出し現状に適した介護計画の作成に努めている。	入居者・家族の思いを優先したプランには、本人のホームへの思いや食への希望がそのまま表記し、重度化に向けた家族の意向が記載している。車椅子(自走)を利用しながら、食事へのかかわり(おしぼり巻き・お盆拭き)を本人の役割として定着させるような支援内容としている。プランは3ヶ月ごとの評価により、内容を見極め入居者の現状にスライドしながら内容の継続や追記、削除を決定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした変化等でも詳しく個別記録に残し、職員の工夫や対応法等を共有し、実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からのニーズを伺い、適した介護保険以外のサービス(訪問マッサージ・訪問理美容など)の活用に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に現在のかかりつけ医の確認を行い希望に沿えるよう努めており、協力医療機関以外の病院受診等については家族の協力を依頼し対応している。	かかりつけ医については協力医療機関をはじめとした本人・家族の希望に応じた医療機関より往診や職員、家族による受診支援がおこなわれている。また、職員はバイタルチェックや日頃のかかりから気になることは医師や訪問看護師に相談を行い、早期対応ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約で、24時間オンコール態勢や毎週水曜日の健康チェックを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報交換を行い、安心して治療が出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応についての指針を家族と取り交わしを行っている。	重度化した場合の指針を作成し、本人・家族の要望に応える最終の支援に努めることとしているが、この一年看取り支援は行われていない。入居時にホームの指針とこれまでのケースを伝え、その時点での意向を聞き取り、必要に応じ再度確認をおこなっている。状態に変化が生じた時点で担当医師を含めて今後の方向性などを話し合っている。	往診可能な医師や訪問看護ステーションとの連携は終末期を支援するホームにとって心強いものである。今後は日頃のかかわりを大切にケアについて共有を図りながら、看取りに関する研修会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に救急救命法やAED操作方法等についての研修会を実施し個々の対応レベルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災についての研修会への参加とマニュアル確認を行い常時的確に対応できるよう各職員努めている。	今年度は1回目を夜間想定で、2回目を昼間想定で、通報をメインに初期消火訓練などを取り入れた避難訓練を実施している。訓練には歩行に心配がない入居者のみ参加している。訓練で職員の動きはスムーズであったことや、今後もマニュアルの確認を常に行い、意識をもって対応できることを課題にあげている。	確保している備蓄については、リストをもとに家族や運営推進会議の中でも伝えることで、安心や不足などの意見を受ける機会にもつながると思われる。今後もホームが階上であることから、火災に加え自然災害についても有事に備える取組について検討されることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内全体研修会に参加し、各職員が意識して対応出来ており、個人情報保護の徹底に努めている。	法人全体の研修の中で入居者の尊厳やプライバシーに関して周知に努めている。また、職員の守秘義務についても全体研修などで周知徹底を図っている。入浴時の介助で異性を拒否される場合には、入浴日を変更したり、ユニットの垣根を越えて職員を交代するなど、可能な限りの対応に努めている。呼称は苗字にさん付けとし、ご夫婦にはフルネームで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事やレクへの参加や不参加については自己決定を促す声掛けを行い、本人の希望や要望については出来る限りの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者各々の生活パターンを把握し、本人のペースに合わせた支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用と男性入居者へは朝からの髭剃りを促し、服装に関しても自己決定が出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は調理(簡単な皮むきや切込み)のお手伝いをお願いし一緒に料理を行っていたが、ADLの低下により徐々に出来ることが少なくなり現在では調理作業の可能な入居者は不在である。	献立は法人の栄養士が作成しており、食材は配達され調理を職員がおこなっている。行事食やパンの日(サンドイッチ・ロールパンなど)、麺の日(うどん・ちゃんぽん・ラーメン・パスタ)なども入居者の楽しみとなっている。食形態も個々の嚥下力などに応じて準備しており、食事の場所も一人がけの席を好まれる方や数人がけのテーブル席など希望や相性なども考慮して決定している。入居者が調理にかかわる機会は難しくなっているが、興味のある方や匂いから台所に近寄ってこられる方もおられ、職員が今日のメニューなどを伝えている。	入居者から「この料理は私にちょうどいい！」の言葉も聞かれた。今後は入居者の思いを共有するためにも、1名でも味や量の確認を兼ねて同じものを摂り、次回につなげていかれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者各々の摂取状態に合わせた食事形態の提供と提供量などの調整に努め、脱水状態にならないよう水分摂取量を把握し、お茶だけではなく出来るだけ本人の意向に沿った飲み物を提供するようにしている。		
42		sya 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者お一人お一人の状態に合わせた支援を提供している。 毎食後の声掛けと介助に努めている。 また、歯科受診が困難な入居者様へは訪問診療を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや仕草や表情を察知し、トイレ誘導を行っている。また、出来る限りトイレでの排泄を目標に立位が難しい入居者の方でも座位が可能ならばトイレに座って頂くように努めている。	個々に応じた声かけや誘導を行い、日中は基本的にトイレでの排泄を支援している。現在は布パンツで過ごされる方もおられるが、ほとんどの方がリハビリパンツを使用されており、昼夜や時間帯に応じてパットの使い分けを検討している。排泄用品はホームで準備しているが、中には面会を兼ねて家族が購入し持参される方もおられ、状況を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄チェックを行い、便秘傾向にある入居者には朝食前に冷たい牛乳を提供したり等排便の促進に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状態に合わせて無理強いせず週2回の入浴を行っている。浴槽のは手すりを設置し安全面を考慮している。	週2回、午後からの入浴を支援しており、現在は拒否をされる方はおられず、着替えの準備や洗身など、できる方には継続しておこなえるよう声かけや見守りに努めている。3階ユニットにはリフト浴が備わっており、2階の入居者も身体状況に応じてリフト浴を使用されている。冬至の時期には柚子風呂を全員が楽しめる期間実施している。入浴後は個々に応じて保湿クリームを塗り、皮膚乾燥を防いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者各々の生活パターンを把握し、本人に合わせた支援を行うように努めている。また、日中の活動量を増やし夜間の良眠に繋げられるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の現病歴や内服薬を把握し、誤薬等を防止するため、準備や与薬する際には必ず職員2名による確認を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の身体レベルに応じ、洗濯物たたみや新聞たたみ等のお手伝いをお願いしたり、おしぼりやエプロンの準備等の依頼をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援として、定期受診時は出来る限り自動車での移動ではなく歩行・車椅子での移動を行い、近隣のコンビニまで買い物に出掛けることに取り組んでいる。また、季節の行事としてお花見や初詣を実施し、家族への外出機会のサポートをお願いしている。	居住スペースが階上にあることから希望に応じた外出の機会は少ないようであり、定期受診を身近な外出と捉え、可能な限り外気を感じられるよう徒歩や車いすで出向くようにしている。また、徒歩圏内にある桜の開花見物に、2～3人で出かけたり、コンビニに嗜好品の購入など、少人数や個別の外出を支援している。正月には外泊や帰省をされた方や、毎週1泊を自宅で過ごされる方など、家族の協力が得られている。	今年は初詣の機会は持たれなかったようであるが、気候の良い時期にあらためて参拝を企画することで、入居者に有意義な外出につながると思われる。また、地域の祭りなどへの外出に家族にも参加を呼びかけ、入居者と楽しいひと時を過ごされる時間を支援していきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理については基本的に職員で対応している。ちょっとした買い物等に関しては一緒に出掛け、商品を選んだり等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話希望はないが、遠方にお住いの家族が数名おり、定期的に連絡がある。その際は出来る限り本人に電話に出て頂くよう促し短時間でも話せるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既設を問わず朝からは必ず窓を開け空気の入替を行い季節を感じて頂くように心掛けています。フロア環境(テーブルやソファ等)については混乱を避けるため配置転換はなるべく行わず慣れた雰囲気でも過ごして頂くように努めている。	2階・3階に配置された各ユニットは、模様替えの有無もそれぞれが入居者の状況に応じて行っている。雛飾りや壁面など飾り物や置物、換気により季節感のある空間を作っており、温湿度も状況に応じて設定している。窓側に置かれたソファで雑誌を広げ、気になる商品をメモに記す男性入居者や、台所からの音や匂いはリビング食堂に伝わり、食事までの時間を職員と談笑しながら待つテーブル席など、和やかな光景が見られた。	各ユニットへの入室には安全面から施錠による対応が施されているが、今後も家族や来訪者が訪れやすい雰囲気作りに取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開設当初より大きな配置換えは行わず、各々に過ごして頂けるようにし、誕生会等を行う際は全員が集えるようテーブルを合わせ全ての顔が見えるような工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との相談等において、入居者が過ごしやすいよう私物の持ち込みを依頼し持ち込みの制限はしないように努めている。ただし、危険を伴うハサミ類等については制限する必要がある。	入居の際にベッドやタンス、洗面台など備わっている品と、本人が安心できる環境となるよう、馴染みの品の必要性について説明を行っている。また、限られたスペースであり、季節外の布団や衣類については、サイズや損傷の確認を兼ねて可能な限り持ち帰りを依頼している。持ち込みの多少はあるが、海外旅行での思い出の品や、英語の本、椅子、観葉植物、馴染みの家具などが持ち込まれている。職員は日々、換気と掃除(毎朝と随時)に努め、居心地の良さにつなげている。	プライバシーにも配慮して排泄用品を収納籠にしまわれた部屋が見られ、商品そのまま置かれた部屋については、同様の取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎朝の掃除に加え、随時に行い清潔保持に努めている。配置物に関しては入居者の動線を考慮した上で配置しているが、人によっては動線に影響がある為、都度配置を変更し入居者の動線と検討している。		